

1 時 間 で 内 容 が わ か る **導 入 セ ミ ナ ー**
「知財事業開発スキル」(東京)
～ビジネスモデルから知財を語る～

実施日程	5月17日(水) 18:30～19:30 弁理士会館
受講料	1,000円
対象者	<ul style="list-style-type: none">● 「知財事業開発スキル」の内容に興味がある方 <p>～以下、「知財事業開発スキル」の対象者～</p> <ul style="list-style-type: none">・ 知財経営コンサルタントを目指す弁理士であって、経営コンサルタントの考え方と使用するツール等を理解したいと考えている方(中小企業支援を目指す弁理士は特に望ましい)・ 企業にお勤めで、知財の事業への貢献について他部門に分かりやすく提言したい方・ 起業をしている、又は予定しており、ビジネスモデルの構築法を身に付けたい方・ 知財ビジネスアカデミー「経営基礎コース」受講者並びに同程度の知識・経験を有する会員、これらに準ずるゲスト
概要 ねらい	<p>「知財事業開発スキル」(全3回)の内容や目的を講師自身からご説明する1時間の紹介セミナーです。受講を検討されている方は勿論、どのような講座を取るべきか・学習を行っていくべきか迷われている方にも指針となる内容ですので、お気軽にご参加ください。</p> <p>～以下、「知財事業開発スキル」の概要・ねらい～</p> <p>「企業が、知財に投資する価値を見出すのは、どんな時か？」その答えの1つは、専門知識がない経営陣でも、知財が自組織のビジネスにどう貢献してくれるのか、明確に理解できた時ではないでしょうか。本講座は、複雑なビジネスモデルの全体像をつかむツール、“ビジネスモデル・キャンパス”(BMC)*を活用して、事業全体に貢献する知財のあり方を、専門外の相手にもわかりやすく提言することを目指す、実践型ワークショップです。第1回では、講義と演習を通じて、ビジネスモデル構築のポイントや、事業スタートアップを成功させるために重要な一連のフローと考え方を理解します。第2～3回では、自社やクライアント企業の実際のビジネスモデルを取り上げて、「知財がビジネスモデルをどう強くできるのか」検討し、周囲や講師からフィードバックを得て、アイデアをブラッシュアップしていきます。本講座を通じ、知財を深く知る専門家としての視点と、ビジネスモデルを俯瞰する全体最適の視点の両方をもった、知財戦略コンサルタントとしての基礎力を得ることがねらいです。</p> <p>*【参考：ビジネスモデル・キャンパス(BMC)とは】</p> <p>ビジネスモデル・キャンパスとは、45か国470人のビジネスモデルイノベーションの実践家が共同執筆し、全世界で65万部を突破したビジネス書『ビジネスモデルジェネレーション』が提唱する、ビジネス創造のツールです。顧客価値を中心に置き、顧客・パートナーとの関係性の創出や、社内外の知識資産活用に焦点を当てながら、ビジネスモデルの構築に必要な全要素を1枚の紙にモレなく・ダブリなく表現できます。経営における異なる立場・視点を超えて理解できるシンプルさと、国や業界を問わず、あらゆる今日のビジネスモデルへ適用できる汎用性が、全世界の起業家や経営者、コンサルタントに高く評価されています。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none">● 「知財事業開発スキル」の内容と目的、より効果的な学習機会とするためのポイントを理解する



**本講座
担当
講師**

寺石 雅英 (てらいし まさひで)

一橋大学商学部卒業。一橋大学大学院商学研究科博士後期課程修了。名古屋商科大学商学部講師、助教授、群馬大学社会情報学部教授等を経て、2011年4月より大妻女子大学キャリア教育センター教授。群馬大学名誉教授。この間、郵政研究所、日本資産流動化研究所、建設経済研究所、道路経済研究所等の客員研究官や研究委員、国際ベンチャー企業協議会監事、実践経営学会理事などを歴任。2001年には、国立大学教官として日本初のJASDAQ上場企業の社外監査役に就任(株エスイー)。さらに現在は東証1部に上場する総合余暇サービス提供企業の社外監査役を務める(株コシダカホールディングス)。全国の地域振興プロジェクトや温泉旅館の再生プロジェクトのコンサルタントとしても活躍中。専門はファイナンス論、起業論、観相統計学、交渉論。主著に、『ベンチャー創造のダイナミクス』(文眞堂)、『創造への感知力』(ファズボックス)、『ザ・統計学』(ファズボックス)等。

**内容
(予定)**

- はじめに
 - 『知財ビジネスアカデミー』経営基礎スキル系各講座の内容・目的
 - 各講座の相関関係と「知財事業開発スキル」の位置づけ
- 「知財事業開発スキル」講座内容の紹介
 - 本講座の目的
 - 全3回のプログラム内容
 - 演習(一部)体験
- Q&A
- おわりに
 - より実りある機会とするために：受講のポイント
 - 事前勉強(任意)方法のご紹介